

学生確保の見通し等を記載した書類 資料目次

- 資料1…………… 公立大学大学院薬学専攻博士課程の志願動向
- 資料2…………… 公立大学大学院薬学専攻博士課程の募集人員
- 資料3…………… 薬学部生に対する進路希望調査
- 資料4…………… 企業における博士号取得の需要アンケート
- 資料5…………… 薬学研究科に対する進学意向調査（薬学部5年生）
- 資料6…………… 薬学研究科に対する進学意向調査（社会人薬剤師）
- 資料7…………… 山陽小野田市立山口東京理科大学初年度納付金（令和4年度）
- 資料8…………… 経済産業省「未来人材ビジョン」（博士人材の活用）
- 資料9…………… 山口県製薬工業協会加盟企業に対する人材需要調査
- 資料10…………… 中国・四国・九州地方における人材需要調査

令和3年度入試 公立大学大学院薬学専攻博士課程志願倍率

大学院名	募集人員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願倍率 B/A
静岡県立大学大学院	5	14	14	13	12	2.8
岐阜薬科大学大学院	10	8	8	8	8	0.8
名古屋市大学大学院	22	17	17	17	17	0.8
計	37	39	39	38	37	1.1

出典：一般社団法人公立大学協会「令和3年度公立大学実態調査表」

令和2年度入試 公立大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程志願倍率

大学院名	募集人員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願倍率 B/A
静岡県立大学大学院	5	12	12	11	11	2.4
岐阜薬科大学大学院	10	13	13	13	13	1.3
名古屋市大学大学院	22	21	21	20	19	1.0
計	37	46	46	44	43	1.2

出典：一般社団法人公立大学協会「令和2年度公立大学実態調査表」

令和元年度入試 公立大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程志願倍率

大学院名	募集人員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願倍率 B/A
静岡県立大学大学院	5	6	6	6	6	1.2
岐阜薬科大学大学院	10	12	12	12	12	1.2
名古屋市大学大学院	22	21	21	19	19	1.0
計	37	39	39	37	37	1.1

出典：一般社団法人公立大学協会「令和元年度公立大学実態調査表」

公立大学大学院薬学専攻博士課程募集人員

大学院名	薬学科 (6年制) 募集人員 A	薬学専攻 博士課程 募集人員 B	薬学科に対 する博士課 程の比率 B/A
静岡県立大学大学院	80	5	6.3%
岐阜薬科大学大学院	78	10	12.8%
名古屋市大学大学院	65	22	33.8%
計	223	37	16.6%

山陽小野田市立山口東京理科大学大学院	120	5	4.2%
--------------------	-----	---	------

出典：一般社団法人公立大学協会「令和3年度公立大学実態調査表」

令和4年7月 5年生（1期生）希望就職先アンケート結果

■ アンケート集計結果参照

戻る

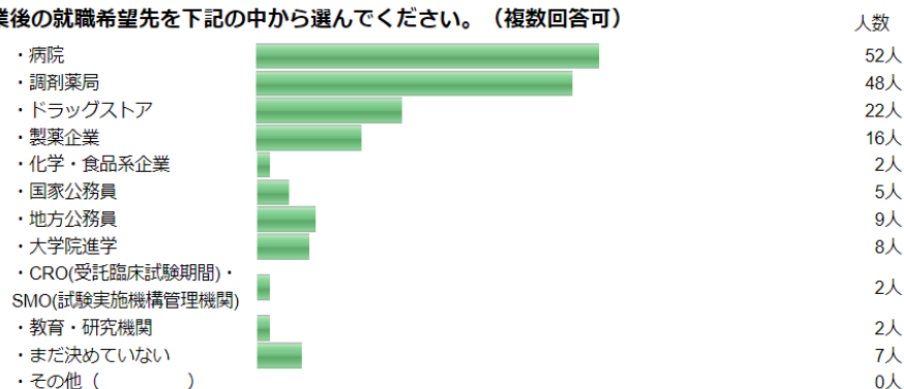
アンケート実施期間：2022/07/06（水）12:00～2022/07/20（水）17:00

対象人数：108人 回答人数：71人 回答率 65.7%

希望就職先のアンケート

皆さんの就職活動に対する意識がどれくらいあるのかを把握する為にアンケートを行いたいと思います。設問は4問です。このアンケートは、皆さんにとって大事なことですので、面倒ではありますが、必ず答えるようにしてください。
以上

1. 卒業後の就職希望先を下記の中から選んでください。（複数回答可）



2. 「博士課程修了者の採用状況に関するアンケート」集計結果

※「構成比」(%) はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問1 ご回答いただいている貴事業所について、あてはまるものを1つお答えください。

項目	回答数	構成比
本社・本店	85	91.4%
支社・支店	0	0.0%
支所・営業所	0	0.0%
工場	6	6.5%
研究所	1	1.1%
その他	0	0.0%
(無回答)	1	1.1%
合計	93	100.0%

問2 貴事業所の所在地を1つお答えください。

項目	回答数	構成比
東京都	15	16.1%
神奈川県	1	1.1%
埼玉県	0	0.0%
千葉県	0	0.0%
大阪府	1	1.1%
兵庫県	1	1.1%
京都府	0	0.0%
山口県	7	7.5%
広島県	8	8.6%
岡山県	8	8.6%
島根県	2	2.2%
鳥取県	2	2.2%
愛媛県	4	4.3%
高知県	2	2.2%
香川県	3	3.2%
徳島県	6	6.5%
福岡県	11	11.8%
佐賀県	3	3.2%
長崎県	2	2.2%
熊本県	4	4.3%
大分県	3	3.2%
宮崎県	1	1.1%
鹿児島県	4	4.3%
沖縄県	1	1.1%
その他	4	4.3%
(無回答)	0	0.0%
合計	93	100.0%

問3 貴事業所が行う業務内容としてあてはまるものをすべてお答えください。

項目	回答数	構成比
製造（製薬）	16	17.2%
製造（化学）	12	12.9%
製造（食料品・飲料）	34	36.6%
製造業（化粧品）	4	4.3%
製薬支援：CRO(医薬品開発支援)事業	0	0.0%
製薬支援：CDMO(医薬品製剤開発・製造支援)事業	0	0.0%
製薬支援：CSO(医薬品営業支援)事業	1	1.1%
製薬支援：TR(トランスレーショナルリサーチ)事業	0	0.0%
医療関連サービス	11	11.8%
その他	18	19.4%
【上記にあてはまるものがない場合】なし	12	12.9%

※複数回答の結果。構成比=各回答数÷回答対象93箇所。

問4 貴社・貴団体の従業員数・職員数（派遣・パートを除く）について、お答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

項目	回答数	構成比
10名以下	6	6.5%
11～50名	13	14.0%
51～100名	14	15.1%
101～200名	24	25.8%
201～500名	18	19.4%
501～1000名	14	15.1%
1001名以上	4	4.3%
（無回答）	0	0.0%
合計	93	100.0%

問17 貴社における従業員の博士号取得に対する考えについて最もあてはまるもの1つをお答えください。

項目	回答数	構成比
特定の部署や職種においては、博士号の取得が要件又は推奨されている	7	7.5%
一定の役職に就くためには、博士号の取得が要件又は推奨されている	2	2.2%
国内外の専門家と対等に議論をする上で博士号が必要である	7	7.5%
博士号取得者としての知識や能力等が必要である	14	15.1%
博士号、或いは博士号取得者としての知識や能力等が必要とされることはない	49	52.7%
その他	8	8.6%
（無回答）	6	6.5%
合計	93	100.0%

問18 貴社の従業員の方から博士号を取得したいという要望があった場合どのように対応されるか最もあてはまるもの1つをお答えください。

項目	回答数	構成比
積極的に推奨する	4	4.3%
通常業務に支障が出ない範囲であれば推奨する	54	58.1%
共同研究を行うのであれば推奨する	13	14.0%
推奨しない	12	12.9%
その他	4	4.3%
（無回答）	6	6.5%
合計	93	100.0%

山陽小野田市立山口東京理科大学大学院薬学研究科博士課程に関するアンケート調査

調査対象 薬学部薬学科5年生（令和6年3月卒業予定者）

調査時期 令和4年11月18日（金）

回答件数 29件

問2 本学が設置を検討している大学院薬学研究科博士課程について、次のうち最も当てはまるものを選んでください。

項目	回答数	構成比
大変魅力を感じる	2	6.9%
魅力を感じる	14	48.3%
あまり魅力を感じない	12	41.4%
魅力を感じない	1	3.4%
合計	29	100.0%

問3 問2で「大変魅力を感じる・魅力を感じる」と回答された方に伺います。

本学に大学院薬学研究科が設置された場合、薬学部卒業後すぐに本学の大学院に進学を希望しますか。

項目	回答数	構成比
ぜひ進学したい	2	11.1%
どちらかというに進学したい	2	11.1%
どちらとも言えない	10	55.6%
あまり進学したくない	2	11.1%
進学したくない	2	11.1%
合計	18	100.0%

問4 現時点で、卒業後すぐに大学院には進学せず、就職を考えている方に伺います。

本学に大学院薬学研究科が設置された場合、社会人経験を積みながら、社会人大学院生として本学の大学院薬学研究科への進学を希望しますか。

項目	回答数	構成比
ぜひ進学したい	1	4.0%
どちらかというに進学したい	5	20.0%
どちらとも言えない	9	36.0%
あまり進学したくない	5	20.0%
進学したくない	5	20.0%
合計	25	100.0%

問5 大学院進学に障害があるとしたらそれはどのようなことですか。

項目	回答数	構成比
学費	8	27.6%
生活費	7	24.1%
保証人の理解	2	6.9%
研究達成に自信がない	9	31.0%
障害はとくにない	3	10.3%
合計	29	100.0%

問6 「学費」「生活費」と回答された方に伺います。

保証人の援助以外に、毎月の収入として最低限必要な額はどの程度ですか。

項目	回答数	構成比
3万円	1	5.9%
5万円	5	29.4%
10万円	6	35.3%
15万円以上	5	29.4%
合計	17	100.0%

山陽小野田市立山口東京理科大学大学院薬学研究科博士課程に関するアンケート調査

調査対象 山口県薬剤師会所属の社会人薬剤師

調査時期 令和4年10月30日（日）

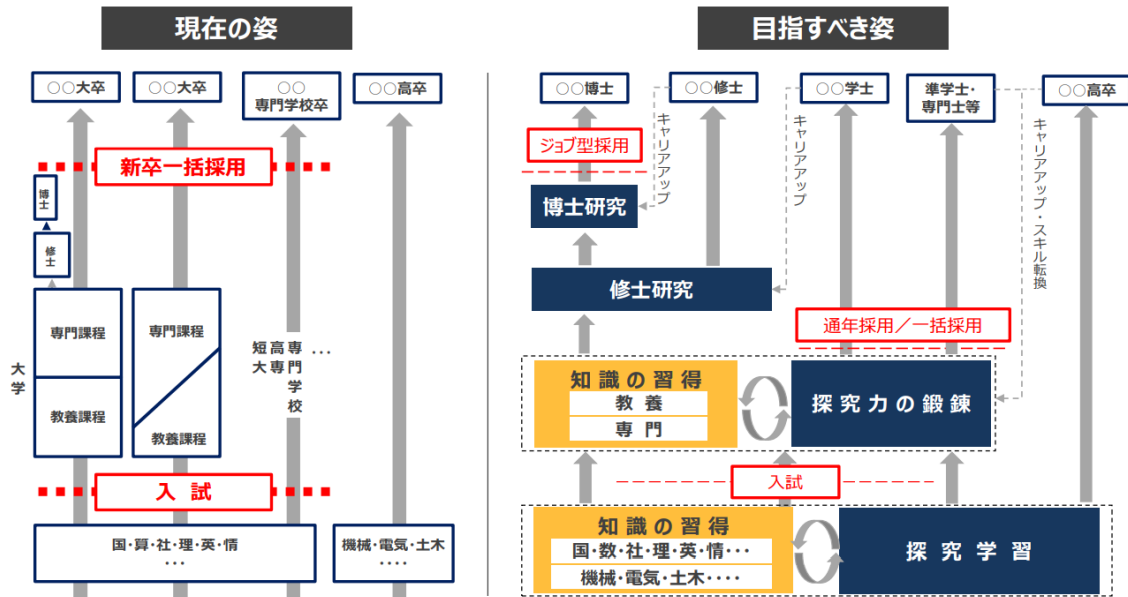
回答件数 30件

問1 本学に大学院薬学研究科が設置された場合、進学を希望しますか。

項目	回答数	構成比
ぜひ進学したい	2	6.7%
どちらかというに進学したい	6	20.0%
どちらとも言えない	15	50.0%
あまり進学したくない	5	16.7%
進学したくない	2	6.7%
合計	30	100.0%

区 分	入学金	授業料	初年度納付金
山陽小野田市内出身者	141,000 円	535,800 円	676,800 円
山陽小野田市外出身者	282,000 円	535,800 円	817,800 円

（出典） 山陽小野田市立山口東京理科大学学則



(出典) 経済産業省「未来人材ビジョン」

山陽小野田市山口東京理科大学大学院薬学研究科に関する アンケート結果

(11社回答)

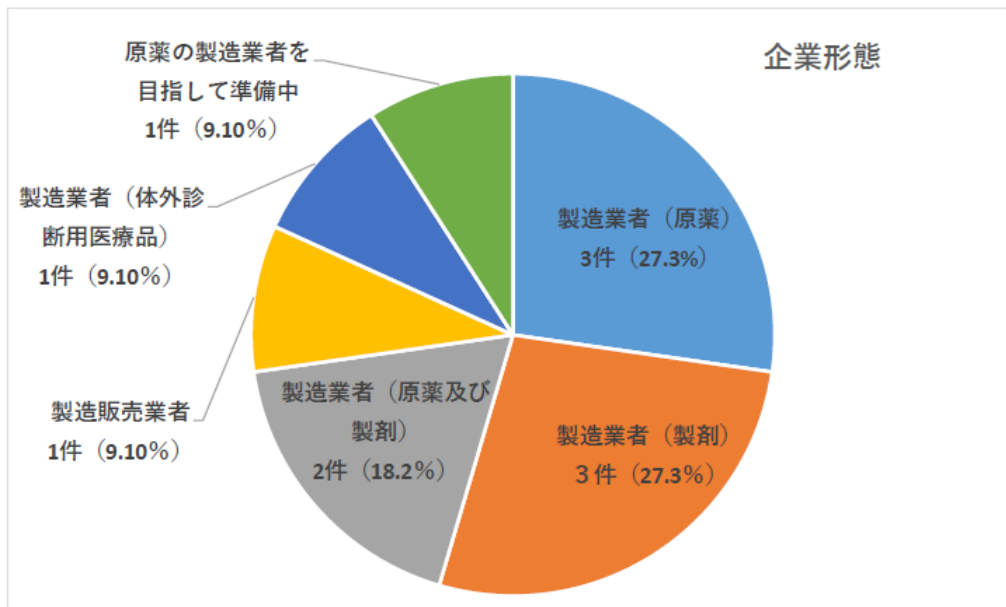
(対象：山口県製薬工業協会加盟企業の工場長様・医薬品製造管理者様)

問1 貴社の形態についてお答えください。

表1

企業形態	比率	回答件数
製造業者（原薬）	27.30%	3
製造業者（製剤）	27.30%	3
製造業者（原薬及び製剤）	18.20%	2
製造販売業者	9.10%	1
製造業者（体外診断用医療品）	9.10%	1
原薬の製造業者を目指して準備中	9.10%	1
合計		11

図1



問2 本学の薬学研究科では、【資料1】にある資質・能力を身につけた者に博士の学位を授与する方針です。このことについてご意見をお聞かせください。 (11社回答)

表2

お伺い内容	回答件数
社会人大学院生にとってはハードルが高すぎると思う。	0
社会人大学院生にはこれらの資質・能力は必要ない。	0
これまでの社会人生活で培ったことを活かせば達成可能だと思う。	11

問3 本学の薬学研究科では、【資料2】にある5つのコース別に教育課程を編成する方針です。このうち「社会人創薬研究コース」の「養成する人物像」についてご意見をお聞かせください。(11社回答・複数回答)

表3

お伺い内容	回答件数
企業が博士号取得者に求める人物像とはかけ離れている。	0
【自由記述】創薬分野は当事業所にはありません	1
【自由記述】製薬企業では主として創薬研究における博士号取得を推奨するケースが多く、これは国内の大部分の薬系大学で達成できると考えます。このことを考慮した場合、貴学として創薬研究のみに拘らなくとも、他校には出来ない教育や特徴をアピールしていくのも良い方法ではないかと考えます。	1
【自由記述】地域医療は地域特異性が高いため山口県で学んだことがうまく反映できるかが不明	1
企業ではこのような人物像を博士号取得者に求めている。	4
企業が博士号取得者に求める人物像としては一部異なる。	6

問4 本学の薬学研究科では、社会人の方が学びやすいように、【資料3】にある対応を行う予定です。このことについてご意見をお聞かせください。(11社回答・複数回答)

表4

お伺い内容	回答件数
【自由記述】交通の便のよいサテライトオフィスの設置	1
このような対応だけでは社会人が博士課程（甲種）へ進学するのは難しいと思う。	1
いわゆる論文博士（乙種）があればその方が良い。	2
このような対応が実現すれば社会人も博士課程（甲種）に進学しやすいと思う。	8

問5 本学の薬学研究科に社会人の方の進学に対してもっとも障害となるのは何ですか。
(11社回答・複数回答)

表5

お伺い内容	回答件数
【自由記述】企業が工場従業員（山口県に特に多い職種を考慮した場合）に対して、積極的に大学院進学を勧めたり、サポートする会社側のメリットが小さい。また工場従業員が進学を希望した場合であっても、会社のサポートなしでは両立したり継続する本人のモチベーション維持が難しいと考えます。	1
会社の事情	1
入学金や授業料等の金銭面	2
就学期間（標準4年間）	3
仕事と大学院の毎日の時間のやりくり	7
合計	14

問6 本学の薬学研究科では、医薬品品質保証に関する教育を行うため、【資料4】にある授業科目を開設する予定です。このことについてご意見をお聞かせください（11社回答・複数回答）

表6

お伺い内容	回答件数
このような科目は社会人大学院教育にとって不要である。	0
【自由記述】実際は製薬企業における実務を通じて学んでいくことになりませんが、導入教育としては十分な内容と考えます。	1
医薬品品質保証の科目として実地見学を組み入れてほしい。	1
医薬品品質保証の科目としては不十分である。	1
医薬品品質保証の科目として十分である。	4
このような科目は社会人大学院教育にとって必要であり重要である。	9

問5 本学の薬学研究科に社会人の方の進学に対してもっとも障害となるのは何ですか。

- 入学金や授業料等の金銭面
- 就学期間（標準4年間）
- 仕事と大学院の毎日の時間のやりくり
- 会社の事情
- 自由記述（足りない対応は何ですか？）

問6 本学の薬学研究科では、医薬品品質保証に関する教育を行うため、【資料4】にある授業科目を開設する予定です。このことについてご意見をお聞かせください。

- このような科目は社会人大学院教育にとって必要であり重要である。
- このような科目は社会人大学院教育にとって不要である。
- 医薬品品質保証の科目として十分である。
- 医薬品品質保証の科目としては不十分である。
- 医薬品品質保証の科目として実地見学を組み入れてほしい。
- 自由記述（追加で必要な授業項目は何ですか？）

問7 本学の薬学研究科が、貴社の従業員の方が学びやすい大学院となるために必要なことについてご意見をお聞かせください。

アンケートは以上です。

1. 「博士課程修了者の採用状況に関するアンケート」実施概要

山陽小野田市立 山口東京理科大学薬学系研究科についての検討を行うため、当該分野の修了生採用が想定される企業等の本社に「博士課程修了者の採用状況に関するアンケート」を計 721 箇所へ送付し、93 箇所から回答を得た。

調査対象	中国地方、四国地方、九州地方に拠点（支社・工場・研究所を含む）がある以下いずれかの業種の企業の本社。 <ul style="list-style-type: none"> ● 製造業（製薬）または製薬支援を行うと思われる企業（各企業 WEB の会社概要に「製薬支援」「CRO」「CDMO」「CSO」などあり） ● 製造業（化学、食品、飲料、化粧品など） 以上にあてはまる計 721 箇所を調査対象とした。
主な調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 回答企業等の基本情報（事業所種類、所在地、業務内容、従業員規模） ● 工学系・薬学系人材（大学院修了、学部卒）の採用意向、採用状況 ● 工学系・役が系人材（大学院修了）に求める資質、採用した場合の業務・配属先 ● 博士号取得推奨の有無 ● 山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部が養成する人材について ● 山陽小野田市立山口東京理科大学薬学系研究科の設置について 主に選択肢式だが、一部記述を含んだ。
調査時期	2022 年 4 月～5 月
調査方法	調査対象先の採用担当者宛にアンケート調査用紙・依頼状・返送用封筒を各 1 部送付した。ご協力いただける場合、回答済のアンケート調査用紙をご返送いただいた。
回収件数	93 件（配布 721 件に対し、回収率 12.9%）

2. 「博士課程修了者の採用状況に関するアンケート」集計結果

※「構成比」(%)はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問1 ご回答いただいている貴事業所について、あてはまるものを1つお答えください。

項目	回答数	構成比
本社・本店	85	91.4%
支社・支店	0	0.0%
支所・営業所	0	0.0%
工場	6	6.5%
研究所	1	1.1%
その他	0	0.0%
(無回答)	1	1.1%
合計	93	100.0%

問2 貴事業所の所在地を1つお答えください。

項目	回答数	構成比
東京都	15	16.1%
神奈川県	1	1.1%
埼玉県	0	0.0%
千葉県	0	0.0%
大阪府	1	1.1%
兵庫県	1	1.1%
京都府	0	0.0%
山口県	7	7.5%
広島県	8	8.6%
岡山県	8	8.6%
島根県	2	2.2%
鳥取県	2	2.2%
愛媛県	4	4.3%
高知県	2	2.2%
香川県	3	3.2%
徳島県	6	6.5%
福岡県	11	11.8%
佐賀県	3	3.2%
長崎県	2	2.2%
熊本県	4	4.3%
大分県	3	3.2%
宮崎県	1	1.1%
鹿児島県	4	4.3%
沖縄県	1	1.1%
その他	4	4.3%
(無回答)	0	0.0%
合計	93	100.0%

問3 貴事業所が行う業務内容としてあてはまるものをすべてお答えください。

項目	回答数	構成比
製造（製薬）	16	17.2%
製造（化学）	12	12.9%
製造（食料品・飲料）	34	36.6%
製造業（化粧品）	4	4.3%
製薬支援：CRO(医薬品開発支援)事業	0	0.0%
製薬支援：CDMO(医薬品製剤開発・製造支援)事業	0	0.0%
製薬支援：CSO(医薬品営業支援)事業	1	1.1%
製薬支援：TR(トランスレーショナルリサーチ)事業	0	0.0%
医療関連サービス	11	11.8%
その他	18	19.4%
【上記にあてはまるものがない場合】なし	12	12.9%

※複数回答の結果。構成比＝各回答数÷回答対象93箇所。

問4 貴社・貴団体の従業員数・職員数（派遣・パートを除く）について、お答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

項目	回答数	構成比
10名以下	6	6.5%
11～50名	13	14.0%
51～100名	14	15.1%
101～200名	24	25.8%
201～500名	18	19.4%
501～1000名	14	15.1%
1001名以上	4	4.3%
（無回答）	0	0.0%
合計	93	100.0%

問5 貴社では、今後5年を考えた際、次の大学院修了者、学部修了者を、どの程度採用したいと思えますか。（それぞれあてはまるもの1つにマーク）

【薬学博士 修了者】

項目	回答数	構成比
ぜひ採用したい	13	14.0%
どちらかというを採用したい	30	32.3%
どちらかというを採用したくない	10	10.8%
採用しない	32	34.4%
（無回答）	8	8.6%
合計	93	100.0%

【薬学部(6年制) 卒業者】

項目	回答数	構成比
ぜひ採用したい	26	28.0%
どちらかというを採用したい	25	26.9%
どちらかというを採用したくない	12	12.9%
採用しない	26	28.0%
（無回答）	4	4.3%
合計	93	100.0%

問8 貴社における過去5年間の薬学博士の採用人数についてお答えください。

項目	回答数	構成比
0人	88	94.6%
1人	1	1.1%
2～5人	3	3.2%
6～9人	0	0.0%
10～14人	0	0.0%
15人～	0	0.0%
(無回答)	1	1.1%
合計	93	100.0%

問9 貴社における今後5年間の薬学博士の採用動向についての予定を最もあてはまるものをお答えください。

項目	回答数	構成比
増加する	2	2.2%
やや増加する	14	15.1%
やや減少する	0	0.0%
減少する	1	1.1%
従来通り	73	78.5%
(無回答)	3	3.2%
合計	93	100.0%

問11 薬学博士を採用する場合、求める能力としてあてはまるものすべてをお答えください。

項目	回答数	構成比
スペシャリスト	36	38.7%
ゼネラリスト	7	7.5%
論理的思考力	40	43.0%
発想力	29	31.2%
協調性	44	47.3%
語学力	8	8.6%
数理統計データ活用力	25	26.9%
コミュニケーション力	49	52.7%
倫理観	16	17.2%
リーダーシップ	26	28.0%
その他	4	4.3%

※複数回答の結果。構成比＝各回答数÷回答対象93箇所。

問13 薬学博士を採用した場合の業務・配属先となり得る部門・部署をすべてお答えください。

項目	回答数	構成比
研究開発	40	43.0%
臨床開発	9	9.7%
生産製造	28	30.1%
品質保証	37	39.8%
技術営業	10	10.8%
内部監査	5	5.4%
知的財産	5	5.4%
製品戦略	10	10.8%
経営企画	6	6.5%
その他	21	22.6%

※複数回答の結果。構成比＝各回答数÷回答対象93箇所。

問13 その他内容(「その他」に回答した11箇所が回答)

1	設計 プログラミング
2	法律事務
3	設計部 (技術)
4	営業・事務
5	DI (ドラッグインフォメーション)
6	薬局にて調剤業務
7	学術担当
8	情報取り扱い
9	施行管理職
10	外部資産
11	管理薬剤師

問14 貴社では過去5年に博士課程修了者を対象とした求人を行われたことがありますか。

項目	回答数	構成比
求人をしたことがある	23	24.7%
求人をしたことはない	58	62.4%
わからない・非公表	9	9.7%
(無回答)	3	3.2%
合計	93	100.0%

問15 貴社における博士課程修了者の採用状況をお答えください。

項目	回答数	構成比
不足している	9	9.7%
やや不足している	14	15.1%
適当である	57	61.3%
やや過剰である	0	0.0%
過剰である	0	0.0%
(無回答)	13	14.0%
合計	93	100.0%

問16 問14で「求人したことはない」を選択された方に質問します。貴社において博士課程修了者を対象とした求人を行わない理由として、あてはまるものすべてをお答えください。

項目	回答数	構成比
博士課程修了者の専門知識は企業ではすぐには活用できないから	24	41.4%
企業内外での教育訓練によって早くから社内の研究者の能力を高める方が、博士課程修了者を採用するよりも効果的だから	11	19.0%
専門分野以外では博士課程修了者が研究を推進することを期待できないから	2	3.4%
博士課程修了者の採用は研究開発以外の点では有益ではないから	5	8.6%
企業の研究開発の規模が小さい、もしくは縮小するから	14	24.1%
企業の研究開発に必要な専門的知識が博士課程修了者には不足しているから	0	0.0%
その他	13	22.4%

※複数回答の結果。構成比＝各回答数÷回答対象58箇所（問14で「求人したことはない」）。

問16 その他内容(「その他」に回答した9箇所が回答)

1	必ずしも、そこまでの知識が必要ではない
2	求職学生全体にアプローチしているため
3	能力を発揮してもらって仕事がないから
4	人材があまりいないから
5	新卒募集を行っていなかった
6	獲得できないと思っているから
7	適切な部門がないため
8	そこにこだわっているわけではないため
9	始まったばかりの部門のため

- 問21 山陽小野田市立山口東京理科大学では、6年制薬学部と4年制博士課程の一貫教育を行うことにより、産業界が求める能力を身につけた薬剤師免許を持つ薬学博士を養成したいと考えています。このような6年制薬学教育を受けた薬学博士の養成に対する考えをお答えください。

項目	回答数	構成比
とても必要性を感じる	15	16.1%
必要性を感じる	37	39.8%
それほど必要性を感じない	28	30.1%
全く必要性を感じない	7	7.5%
(無回答)	6	6.5%
合計	93	100.0%